

試験操業における放射能の検査体制 について

福島県漁業協同組合連合会

検査体制の概要

1 県が行うモニタリング検査

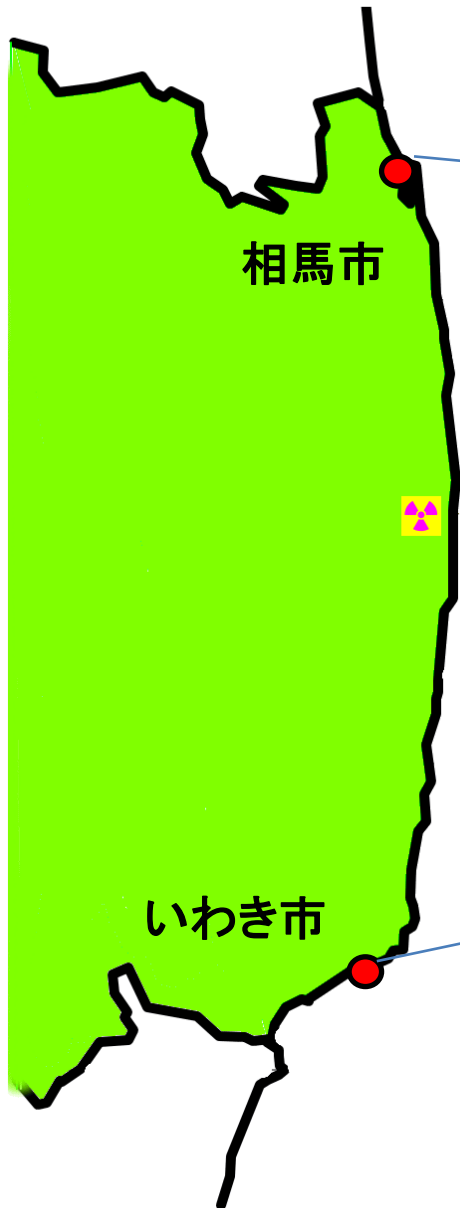
- ・安全を確認
- ・出荷制限等指示の解除(出荷制限指示の対象となる検査)
- ・試験操業の対象種選定

* ゲルマニウム半導体検出器を使用した公的な食品検査

2 漁協が行うスクリーニング検査

- ・消費者により安心して食べてもらうための自主検査
- ・水揚げ日毎に各市場において検査を実施
- ・国の「食品の放射性セシウムスクリーニング法」に準じて実施
- ・簡易分析装置で検査し、25Bq/kgを超えた場合は、水試のゲルマニウム検査機器で精密検査を行う

試験操業に対応した検査機器の配置



県水産試験場相馬支場

ゲルマニウム検査機器 1台

相馬原釜魚市場

CsI検査機器 6台

NaI検査機器 2台

県水産試験場

ゲルマニウム検査機器 1台

小名浜魚市場

CsI検査機器 6台

NaI検査機器 3台

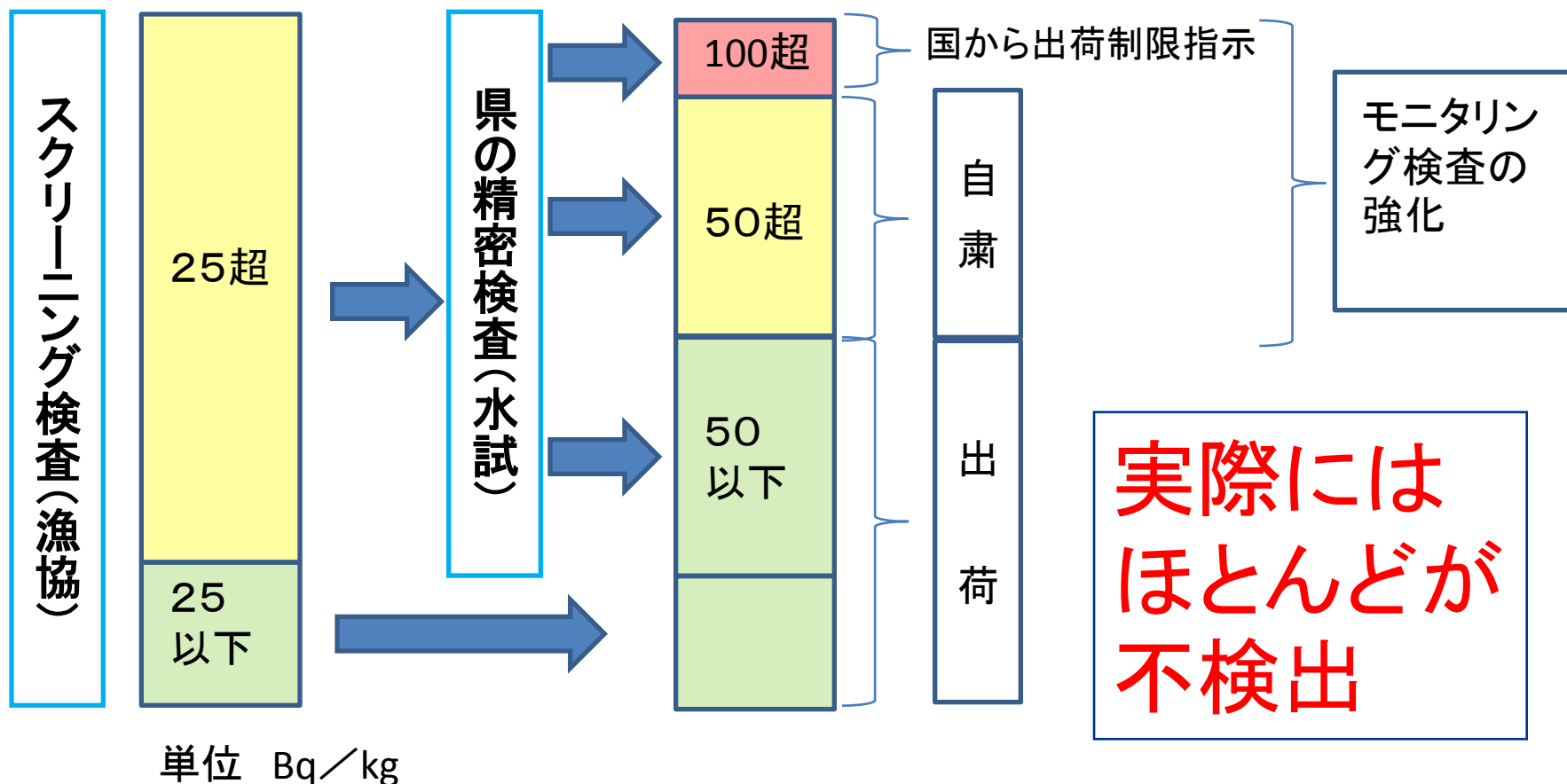
漁協の自主検査体制

- ◆研修を受けた漁協職員が検査
- ◆各検査室において、7～10名程度で検査
- ◆検出下限値は12.5Bq/kg以下になるよう検査



出荷方針

県漁連の出荷方針では、**50Bq/kgを自主基準**としています。
これは、間違っても**100Bq/kg(国の基準値)**を超える魚介類を出荷しないためです。



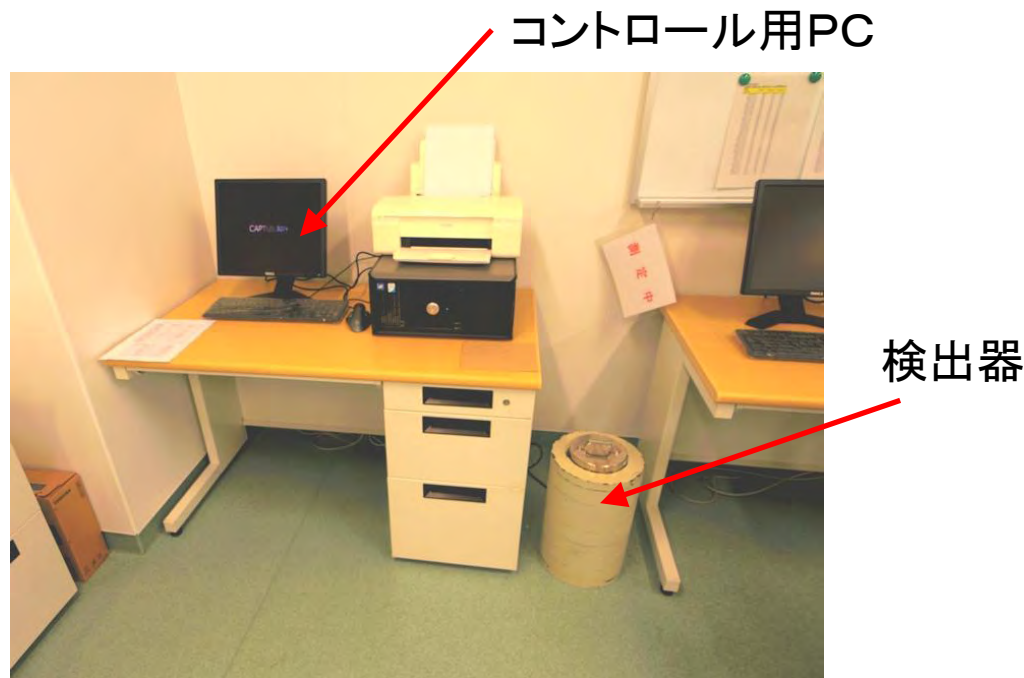
検査機器の特徴

NaIシンチレーション検査機器

- ◆ミンチ状にした検体500gもしくは1kgを使用して検査
- ◆下限値12.5Bq/kgをクリアするのに500gの検体で20分～30分
- ◆大型魚など筋肉部を大量に取りやすい魚種やコウナゴ、シラスのように丸のまま測定するものに使用。



マリネリ容器に詰めた検体



検査機器の特徴

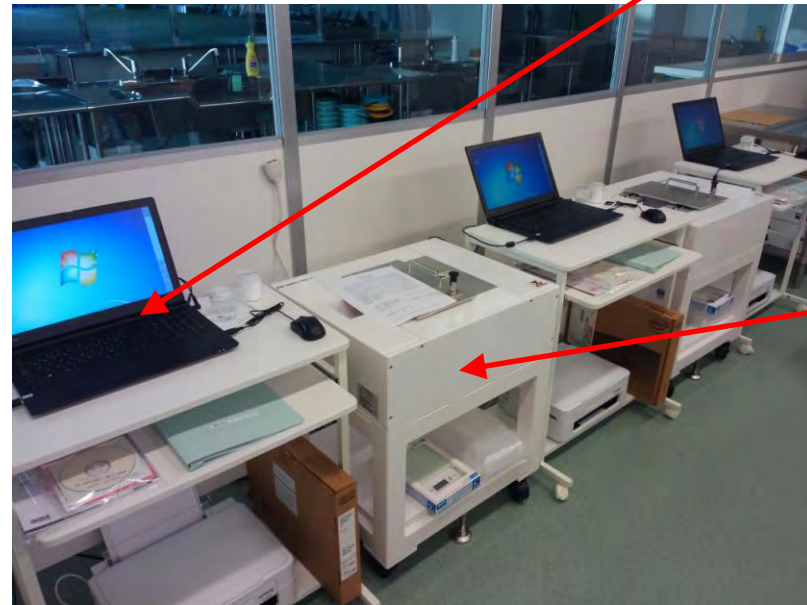
CsIシンチレーション検査機器 (Cs100)

- ◆ミンチ状にした検体100gを使用して検査
- ◆下限値12.5Bq/kgをクリアするのに20分～30分
- ◆検出器が検体を囲むように配置されているので、少量で検査が可能
- ◆小さな魚や高級魚など少量で検査したい場合に有効

コントロール用PC



U8容器に詰めた検体

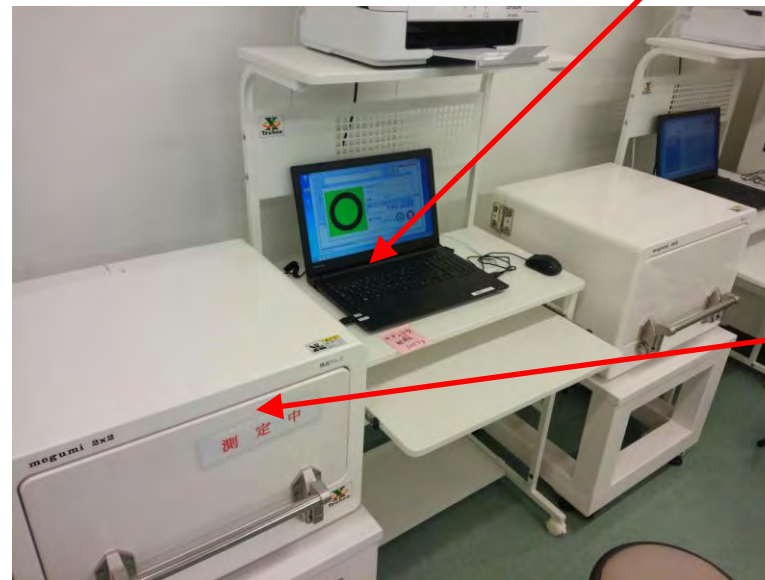


検出器

検査機器の特徴

CsIシンチレーション検査機器 (Cs1000)

- ◆切り身状で測定可能なので、前処理が容易
- ◆下限値12.5Bq/kgをクリアするのに500gで3分程度
- ◆検体の数量は任意(200~1kg程度で測定)
- ◆大きな検出器4つを引き出し下部に配置しているので短時間で測定が可能



コントロール用PC

検出器

検査の様子



前処理室



前処理の様子



検査室

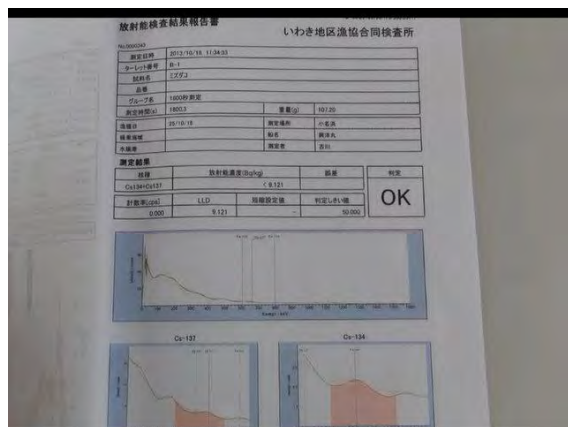


検査の様子

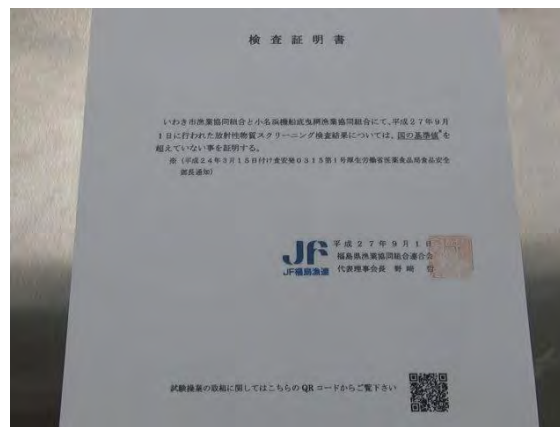
検査実績(2016年3月末現在)

							(検査数)
		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	計
いわき	不検出	0	71	489	812	364	1,736
	50Bq/kg以下	0	2	25	25	2	54
	50Bq/kg超	0	0	1	0	0	1
	計	0	73	515	837	366	1,791
相双	不検出	149	543	1,150	1,931	548	4,321
	50Bq/kg以下	1	4	6	10	1	22
	50Bq/kg超	0	0	1	0	0	1
	計	150	547	1,157	1,941	549	4,344

出荷先毎に検査結果報告書、県漁連の証明書を添付し、箱毎に検査証を貼って出荷



検査結果報告書



検査証明書



検査証